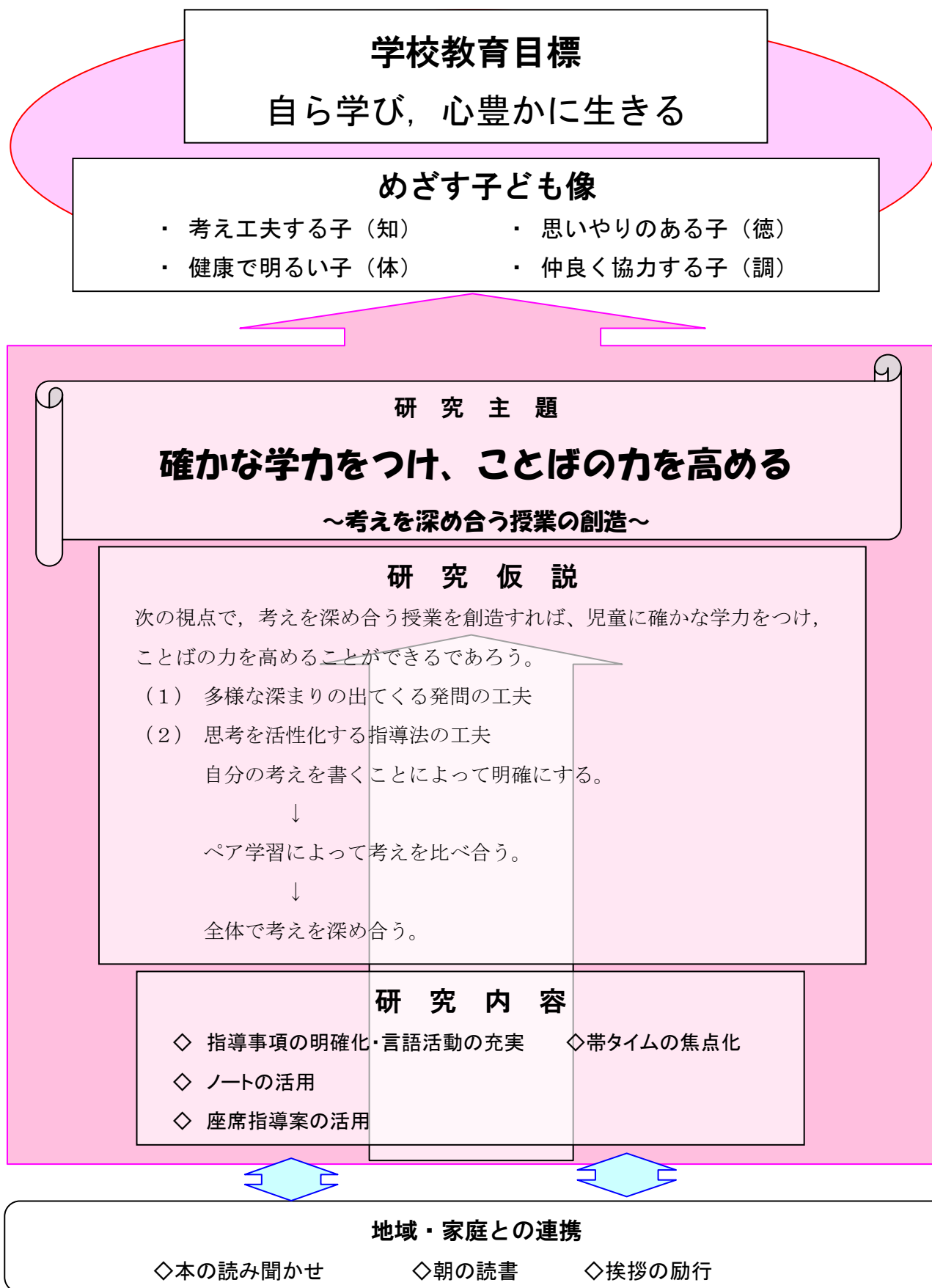


平成23年度努力事項研究計画

広島市立南観音小学校

1 研究の構想図



2 研究主題

確かな学力をつけ、ことばの力を高める ～考えを深め合う授業の創造～

3 主題設定の理由

本校は、「確かな学力をつけ、ことばの力を高める」を研究主題に掲げ、取り組みを進めてきている。成果としては、自分なりの考えをもつことができるようになったと感じる児童が増えてきた。一方、考えの根拠をはっきりともつことができないという課題も残された。また、全国学力・学習状況調査でも、思考力・表現力に課題が見られた。そこで、書く活動を通して根拠に基づいた考えをもたせ、児童一人一人が思考し考えを深め合う授業を創造したいと考え、上記の主題を設定した。

研究主題の「確かな学力」とは、各教科における基礎的・基本的な知識・技能であり、それらの活用により育まれる思考力・判断力・表現力であると考えている。また、「ことばの力」とは、言葉を抛りどころとして豊かな生活を作り出す力であり、それは、さまざまな視点から物事を考える力・学んだことから新しい課題を解決する力・自分を他者に正確にかつ豊かに伝える力が基盤となる。

また、サブテーマの「考えを深め合う授業」とは、一人一人が自分の考えをもち、相手に伝え、相手の考えを聞き、お互いの考えにある違いやよさからさらに考えを深めたり広げたりすることができる授業だと考えた。

4 取り組みの内容

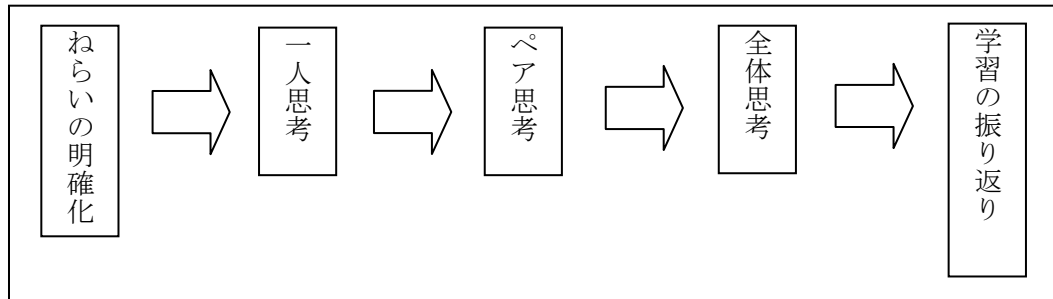


図1 考えを深め合う学習過程

(1) 児童の思考を活性化し、多様な深まりの出てくる発問を工夫する。

本校では基礎学力の向上を目指して、指導事項の明確化に取り組んできた。児童の実態を踏まえて指導のねらいをはっきりさせ、つけたい力や目指す児童の姿を明らかにした上で指導するようにしている。なぜならば、めざす児童の姿をはっきりさせることは、的を絞った発問や言語活動の充実につながるからである。そして、単元で身につけた基礎・基本の力を活用する場としての言語活動の充実は、確かな学力の定着につながると考えられるからである。また、指導事項を明確にするためには、年間指導計画を練ったうえでの取り組みが大切であり、計画に基づき、見通しを持った指導につながると考える。

発問については、教材研究に基づき、ねらいに即して絞り込むようにしている。そのうえで、児童の思考をより深いものへ導くための主要発問を工夫していく。

(2) 書く活動を取り入れ、自分の考えを明確にする。

これまで、授業の中で、自分の考えを明確にするために書く活動取り入れてきた。なぜなら、書くためには考えなければならず、書くことと考えることはつながっているといえるからである。また、書く活動には、書くことで考えを整理できるというよさもある。自分の考えがあるからこそ、他の考えと比べながら聞くことができるし、他の考えとに違いにも気付くといえる。書くことを通して児童は自分の考えを明確にすることができるとともに、より深く考えることができるであろう。

(3) ペア学習によって考えを比べ合う。

ペア学習は、二人が相対して行う話し合い学習であり、話し合いの形態の中で最も基本的な対話という形をとる。ペア学習は、自分と相手が、お互いの考えを共有することで成り立つ。そのためには、まず相手の考えを率直に受け止め、その上で自分の考えを付け加えることが重要になってくる。そして交互に、話し手になったり聞き手になったりして、考えを伝え合う中で、赤で書き加えることで考えを広げることができると思う。

(4) 考えを深め合う場を設定し、授業を構造化する。

他者の思いや考えを正しく理解し、考えを交流し合う中で、さらに自分の考えを深めたり、広げたりさせたいと考えている。そのために、根拠を明確にしながら話し合うことで考えを深め合うようにする。また、全体での話し合いの後は個の活動にかえし、話し合いにより変容した自分の考えを書くことで学習をまとめさせる。この活動は、話し合いによる自分の考えの深まりや広がり確かめ、自覚することであり、考えを深め合う授業のしめくくりとして大切だと考える。

主要発問においては、座席指導案を活用することで授業を構造化していく。座席指導案は、机間指導で児童一人一人の考えを把握し、授業を組み立てていくだけでなく、予想される児童の反応あらかじめ書き込み、支援計画にも活用できる。また、座席指導案を振り返ることで、児童の評価もできる。

一人で考える活動だけでは考えを持ってない児童もいる。しかし、全ての児童が一人で考える活動だけで考えをもつことをねらっているのではなく、ペア学習や全体思考を通して、授業の最後には自分なりの考えをもてるようにすることが大切だと考える。考えをもつために教師が手立てを取ることは当然であるが、話し合いで出された意見を手がかりにすることも手立てであり、自分なりの考えを深めることである。それとともに、そのような話し合いを組み立てていかななくてはならないといえる。

(5) 繰り返し学習を取り入れ、基礎・基本の定着をはかる。

昨年度の児童のCRT学力状況調査の分析から、国語の言語事項や算数科の力全般に課題が見られた。学習習慣については、家庭学習に取り組む時間が全国平均よりも少ないという実態が明らかになった。そこで、集中して繰り返し学習に取り組みせることで、基礎・基本の力を伸ばすとともに、家庭学習の習慣を身につけさせたいと考えた。今年度は、まず帯タイムで昨年度に引き続き、音読に取り組み、新たに国語科については漢字、算数科では「数と計算」に絞り込んで、繰り返し学習に取り組みせ、確実に定着をはかる。検定を取り入れることで、意欲付けと達成感につなげたい。